

## 第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

### 報告書資料 復興支援 — 21

学校名・団体名	熊本市立託麻東小学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	認め合い、高め合い、生き生きと学ぶ子どもの育成
<p>〈活動・研究の意義および活動報告〉</p> <p>1 研究主題 認め合い、高め合い、生き生きと学ぶ子どもの育成 ～生徒指導の三機能を生かすことを通じて～</p> <p>2 研究の仮説 学習において、生徒指導の三機能（自己存在感を与える、自己決定の場を与える、共感的な人間関係をはぐくむ）を生かした指導の工夫を行えば、生き生きと学びに取り組む子ども（自尊感情・社会性が高まった子ども）が育つであろう。</p> <p>3 研究の視点 [視点1]他者と関わるトレーニングの場（託東タイム）を設定し、関わり方のスキルを学び、よりよい関わり方を身につける。 [視点2]学校生活の様々な場面で、特に授業において、生徒指導の三機能を生かす場を設定する。</p> <p>4 取組の実際 (1) 託東タイムの実践 平成29年9月からグループアプローチを実践する時間である「託東タイム」毎週1回10分間続けた。</p> <p>① フリートークの場の設定 平成30年度から構成的グループエンカウンターを狙いである積極的な自己開示と他者理解の深化のために「フリートーク」の場を設定した。例えば、アドジャンでは「学校の教科で何が好きか」という問いに対して、フリートークの時間に子どもたちはさらに理由を質問したり、教科の魅力を伝えたりしていた。</p> <p>② 挨拶の握手と氏名を呼び合う工夫 以前はプログラムの前後に「よろしくお願ひします」「ありがとうございました」という挨拶をしていたが、30年度から挨拶の際に必ず握手をするようにした。またプログラムを実施するときに必ず相手の氏名を呼ぶようにした。このことで相手のぬくもりを感じ、自分の存在を実感し友だちの存在を認めるようになった。</p> <p>(2) 生徒指導の三機能を生かした授業の実践 ①自己存在感を与える手立てと工夫（例）</p>	

### 「4年生 算数 面積の実践より」

#### a 楽しく関わり合うペア活動の手立て

広さ比べの方法を学ぶために「広いほうが勝ちゲーム」という活動をペアで行った。方眼が描かれたワークシートにじゃんけんが勝ったほうが1つずつ色を塗っていくという簡単なゲームである。じゃんけんをしたり、勝敗を考える活動を通して子どもたちは互いに楽しく関わり合うことができ、全員が学習に参加することができ、自己存在感を高めるきっかけとなった。

#### b 困り感を生かした課題設定の工夫（例）

「広いほうが勝ちゲーム」の2回戦は図のようになっており、単純に色を塗った数では比べられないようになっている。授業でも多くの子どもがどのように広さを比べたらよいか困っている姿が見られた。そこで「どんなことに困っ

①	③	⑧	⑨
	④	⑩	⑪
②	⑤	⑥	⑫
⑦			

ているの？」と尋ねると、何人の子からも「一つ一つのマスの広さが違うから比べにくい」という言葉が返ってきた。この言葉をもとに本時のめあてを「一つ一つのマスの広さが違うときどのように広さを比べたらよいのだろう」と設定した。このように子どもたちの困り感を学習課題に設定することで、学習が苦手な子供たちの参加意識が高まり、前向きに学びに向かうようになった。

### ③ 自己決定の場を与える手立てと工夫（例）

#### 「6年生 体育 自分の記録に挑戦！走り高跳びの実践より」

#### a 教育機器の活用の工夫

自分の課題は何か、どんな練習をすれば目標記録を達成できるか、視覚化するためにタブレットを使用した。

#### b 場の設定の工夫

自分の課題が明確になったら、それに向けての練習の場を選べる場を設定した。体育館をフルに活用して、「助走」「踏み切り」「空中姿勢」「記録に挑戦」の場を設定した。練習場所は変更可能にし自分の課題をクリアできるように設定した。

#### c 課題解決の場での工夫（教え合い）

課題解決の場では、バディを組んでお互いに教え合うようにしたり、その場のみんなと教え合うようにしたりした。またお互いにお手本を見せあうことも取り入れ、活発な教え合いができるようにした。

### (3) 生徒指導の三機能を生かすことを意識した特別活動や日動活動

- ① 無言掃除の実践
- ② ペア学級交流の実践

## 5 成果と児童の変容

各種アンケート結果から、子どもが友達から嫌なことや否定されたり遠ざけされたりすることが減少し、子ども同士の人間関係がよくなってきたことが明らかになった。また、自尊感情や学校満足感などの質問に対する回答もどの項目も数値が上がっており、子どもたちの自尊感情が高まってきたことがわかる。

養護教諭から友達との関わりの悩みやトラブルが理由で保健室へ来校する子どもたちが減ってきているという報告も受けているし、中学校の先生方から本校の卒業生が中学校でうなずきながらよく話を聞いていると聞いた。また学力テストの結果を見ても平成29年度と平成30年度を比較して、比較できる学年・教科のほとんどで学力が向上している。